



学校だより

平成27年12月1日 第9号

さいたま市立大宮東中学校

E-mail omyahigashi@saitama-city.ed.jp

「読書」

校長 上 函 啓 介

そろそろ秋も終わりを告げようとしています。通勤途中、櫟の落ち葉を集めている人の姿をそここで目にします。たぶん自前の堆肥作りに使うのだろうなと思いつつ、近い将来の自分の姿をそこに見ているような気がしました。

さて、先日の朝礼で私が読書をするようになったきっかけについて話をしました。中学生の時、国語の教科書の巻末に載っていた「伊豆の踊子」を読んだことが私の読書の原点です。何の気なしに開いたページ。「伊豆の踊子」という文字が目飛び込んできました。そして、朝礼で紹介した冒頭の部分「道がつづら折になって…私は一つの期待に胸をときめかして道を急いでいるのだった。」に引き込まれ、読み終えたときには、すっかり主人公になりきってしまったのでしょうか。時がたつのを忘れ、私は作品の虜（とりこ）になっていました。

私は子どもの頃、読書の習慣がないままに過ごしてしまいましたが、中学3年の時のこの一冊の本との出会いから人並みに本を読むようになりました。

先日、インターネットで本の検索をしていたところ、懐かしいTVドラマのタイトルが載ったホームページを見つけました。「落下傘の青春」というNHKで放映されたドラマ（確か銀河テレビ小説という番組だったかと思います。主人公の大ちゃんは財津一郎、大ちゃんがあこがれたのが仁科明子でした。）です。高校3年の時に偶然観たこの番組が妙に心に残り、「原作を読んでみたい。」という気持ちになったのを覚えています。原作は、山川方夫の短編の小説でした。山川方夫の「方夫」って、なんて読むんだろうと思いつつ早速本屋に出かけて調べましたが、探し当たらず、本屋さんに調べてもらったところ「冬樹社」という出版社から全集が出ているということがわかりました。全集というと値段も高いだろうなと思いつつ、早く手にしたい一心で出版社に電話をかけたところ、「直接来てくれれば一冊でもおわけします。」という返事をいただき、すぐに出かけました。確か御茶ノ水だったと思います。地図をみながら目的地に着き、「冬樹社」の小さい看板を確認したときには、胸がドキドキしたのを覚えています。梱包された本でいっぱい狭い階段を上がり、事務所らしきドアを開け、社員の方から本を手渡されたときには、何か宝物をもらったような気がしました。

今、3年生の入試に向けた面接練習をしています。その中で「最近感動したことはありますか。」という質問を全員にしています。みんな少し困ったような表情を浮かべながら、しばしの沈黙の後、何とか答えてくれています。最近の子どもたちをみると、物事に感動する気持ちが薄れてきているように感じます。

ぜひ、いい本と出会い、大いに感動し「豊かな心」をはぐくんでほしいと願っています。

学校教育目標 **輝く命 生きる力**

目指す生徒像

○たがいに鍛え、競う生徒

○たがいに結び、励む生徒

○たがいに求め、学ぶ生徒

埼玉県新人体育大会

女子ソフトテニス部

個人戦 小澤 有実・土方 麻由組 4-2 草加・青柳中 (2回戦)
 ベスト32 4-2 朝霞・朝霞第一 (3回戦)
 1-4 川口・戸塚 (4回戦)

団体戦 大宮東 2-1 春日部・武里 (1回戦)
 第5位 2-0 横瀬・横瀬 (2回戦)
 2-1 坂戸・桜 (3回戦)
 0-2 杉戸・杉戸 (準々決勝)

女子卓球部

個人戦 関根 未侑・木村 木の実組 3-0 川口・戸塚西 (1回戦)
 第3位 3-0 所沢・南陵 (2回戦)
 3-1 戸田・戸田 (3回戦)
 3-0 さいたま・大宮南 (4回戦)
 3-0 さいたま・大砂土 (準々決勝)
 0-3 さいたま・日進 (準決勝)

団体戦 大宮東 3-1 志木・宗岡 (1回戦)
 ベスト32 2-3 白岡・白岡 (2回戦)

女子バスケットボール部 大宮東 59-41 春日部東 (2回戦)
 第3位 74-39 戸田・新曾 (3回戦)
 77-42 飯能・飯能第一 (準々決勝)
 47-62 春日部・豊野 (準決勝)



のびのびとプレーしました



練習の成果が出ました



声を出してプレーします

埼玉県新人体育大会を終えて

女子バスケットボール部【第3位】森下 美風 部長 (2年1組)「今年のチームはこれまでと比べ、身長も技術ありません。県で第3位という結果はうれしく思います。大会では、コート内でよく声が出せましたが、ベンチからの声もとてもよく出ました。ベンチのいい声が聞こえると試合に出ている人の分まで頑張れます。これからは一人ひとりが課題をもって練習に取り組んでいきます。」

女子ソフトテニス部【団体戦第5位】高橋 菜緒 部長 (2年3組)「私は県大会で、強くなるためには前衛が動かなければならないということを学びました。強いチームと私たちとはまだまだ差がありました。そのような差がある中でベスト8に入れたということは素晴らしいことだと思います。応援して下さった皆さん、ありがとうございました。」

【個人戦ベスト32】小澤 有実 (2年2組)・土方 麻由 (2年4組)「2回勝ってシードと当たることが目標でした。シードの組は強いとわかっていましたが、それ以上に名前負けしてしまったことが悔しいです。1ゲーム取れば、と目標を下げなければよかったと思いました。冬季大会では目標をこれまで以上に高くもって試合に臨みます。」

女子卓球部【団体戦ベスト32】阿部 ゆい 部長 (2年3組)「県大会を終えてみて、自分たちの力が見直せたいいい機会になったと思います。市内大会とは違う雰囲気の中で、全力で取り組み、よい点と悪い点を各自が見つけられました。今回の経験を生かして、次の大会までにしっかりと練習していきたいです。」

【個人戦ダブルス第3位】関根 未侑 (2年2組)・木村 木の実 (2年2組)「いつも通りにやって、2回ぐらい勝てればいいな、と思って大会に臨みました。試合中や試合の前後にペアでよく話をします。前の試合でうまくいかなかったことを、次にどうしていくかを話し、次の試合に生かしています。冬季大会では、新人戦と同じような成績をとれるようがんばります。」

市駅伝競走大会を終えて 「応援ありがとうございました」 男子37位、女子19位

高田 聖 部長（3年3組）「今年の駅伝部は人数も多く、また試走もできないという厳しい状況でしたが、互いに切磋琢磨し、支え合いながら困難を乗り越えてきました。結果は少し残念でしたが、よい経験をする事ができてよかったです。」

神宮 杏樹 部長（3年2組）「私は、去年と同じ1区を走らせていただきました。自分の走りができず、悔しい気持ちがありましたが、走り終えた後の、後輩が巻き返してくれる姿を見てチームの良さを学びました。来年、私たち3年生は出ることができません。後輩たちに頑張ってもらいたいです。」



男子1区



男子2区



男子3区



男子4区



男子5区



男子6区



女子1区



女子2区



女子3区



女子4区



女子5区



駅伝部全員集合

さいたま市科学教育振興展覧会最優秀賞、埼玉県科学教育振興展覧会優秀賞

豊岡 由佳理 科学技術部部長（3年1組）「科学技術部は、昨年度の秋にカエデの種子の研究を始めました。実験と分析を何度も行うことは大変でしたが、市で最優秀賞だと知ったときはとてもうれしく、頑張ってきたよかったと思いました。学んだことを今後に生かしていきたいです。」

中部地区社会福祉協議会主催「会食サービス」（11月14日実施）サッカー一部参加

岡田 悠伸くん（2年2組）、岩渕 嘉暉くん、（2年3組）高田 賢臣くん、（2年3組）渡邊 成晃くん（2年3組）が参加しました。

高田 賢臣「僕は今回初めて会食サービスに参加したのですが、自分と違った世代の方と会話しながら食事をする事ができてよかったです。」

岩渕 嘉暉「普段お年寄りとは話すことがないけれど、会食サービスで話すことができ、楽しく一緒にご飯を食べることもできました。いい経験ができてよかったです。」



話をしながらの会食